

令和7年度林業イノベーションハブ構築事業

第3回デジタル分科会 議事概要

日時：2026年1月28日（水）10:00～12:30

場所：東京都千代田区六番町7番地 日林協会館 3階 大会議室（Web会議併用）

(1) デジタル林業戦略拠点採択地域からの報告

- 北海道の取組については、原木の生産・流通情報を活用し、需給の調整も視野に入れたSCMシステムの展開を見据え、商流の規模に応じた柔軟なシステム設計や、利用料金体系の検討（買取またはサブスク等）、自走化に向けた資金調達の検討が進んでいると理解している。
- 静岡県の取組については、丸太検知などの実証を通じて得られた結果を踏まえ、誤差のばらつきや径級ごとの傾向を分析し、その要因を整理した上でソフトウェア開発側へフィードバックすることで、今後の精度向上につなげるのが有効ではないか。
- 自走化に向けては、県森連と合板工場が中心になるが、合板工場には商取引のなかで一定の負担を担ってもらうという協議も必要ではないか。
- 鳥取県においては、システム活用や証明制度対応についてメンバー間に温度差や受け取り方の違いがある中で、まずは協力的なメンバーと取り組み、メリットが明確に出る事例をつくり、それを共有することで取組を広げていこうとしている。この合意形成の進め方自体が他地域にとって参考となる重要な事例であると考えている。

(2) デジタル林業戦略拠点づくりガイドブック（案）

①自走化の考え方とロードマップについて

- ガイドブックにおいて、「自走状態」を定義した上で、あるべき姿を協議会の中で協議した上で共通認識を持つことが重要である。また、自走に向けて、いつまでにどのような状態を目指すのかが分かるよう、時間軸を意識した整理やロードマップを示したほうがよいのではないかと考える。例えば1年後、3年後、5年後といった時間軸を意識し、何がどのように増えていくのかを示すことが、自走化の尺度の一つになるのではないかと考える。